

拝啓 大変御礼が遅れましたが、私は九月二十二日木更津八宝苑にて、長官に御講演を頂きました折の「かずさ政治経済研究会」の代表幹事に指名されました秋元秀夫であります。

長官にはまさに、政治経済共に風雲急を上げる折だったと存じますが、私共のためによくお出かけ下さり、これらの中小零細業界、農水産業に対して細かい支援施策についてお話し下さり、ご配慮有り難く、かずさ地域の多くの皆さんに代わって心より御礼を申し上げます。

長官のふるさともありますこの上総の地、首都圏に隣接した極めて恵まれた立地条件でありましたので、バブル時には時価が暴騰致しました。

そしてバブル崩壊後は暴落へと転落いたし、この地の人々は父祖伝来家産も自信を失い、江戸以来栄えた街まで壊滅させてしまいました。更に再建築として市場原理経済（主義）がすすめられた結果、行き過ぎた規制緩和によって中小零細業界、地方産業が父祖代々育て築いてきました地方商店街、産業は大型企業によってむしり取られてしまいました。更にデフレ、スタグフレーションと限りなく続く時代の荒波に私達の悪戦苦闘が続いております。

今年また追い討ちをかけます様に、巨大な金融危機が始まり、株の大暴落とまさに世界的大恐慌前夜を想像するに十分な悪条件であります。

こうした折、政府は「中小零細業界、資金繰りが懸念されるので、支援する様！」と指示されておられますが、金融機関はかつてのバブル崩壊以後は「糞ものに懲りて臆を吹く」傾向が強く、むしろ本当に資金繰りに困っている所へは貸すなどと思える状況であります。

理由は、地方中小企業界はバブル崩壊によって資金価値のあるものは使い果たし、ここ数年デフレ、大型店の圧迫による経営状態は資金を安易に貸し出せない状況であります。このまま資金繰りの支援が絶たれば、中小企業の倒産廃業は急増し、中小業界は大恐慌になるのではと心配いたしております。

少子高齢化の中で、市民も大型店進出を望まず、コンパクトな安全で便利な街を望む声が大きくなってまいりました。一方、大型店、モールも地方都市では採算が取れないと撤退する数が多くなっております。

私の願望もありますが、ここ二～三年で大中小業界の住み分けが進むと思っております。

そこで一つの提案であります、「本当に困っている中小業界には日本政策金融公庫を軸として、資金繰り援助をお願い申し上げ、但し条件として貸与先企業に対して企業、銀行、官庁OB等をコンサルタントとして適時、常駐させて債権の指導支援をさせて下さい。」中小経営者の最大の欠点は良き相談相手が無いこととあります。今日本の国の市民生活を支えているのは中小企業、農水業で働く七十五%の人達であります。今度の「かずさ政治経済研究会」もこのような思いが強くありましたので、浜田靖一代議士に直訴致したものであります。

予算委員会大変でしょうが、毎日浜田先生と長官の出番を楽しみに見ております。全国の中小企業界、農水産業に働く人たちのために健康で頑張っておられることを祈っております。 敬具